

第 3 回滋賀県産業振興審議会（5 月 29 日）における主な意見

●論点 1 滋賀県産業振興ビジョンの骨子案について

・バックカスティングは企業でも行っている。10 年後、15 年度どうありたいかを描いて次の 3 年を描くようにしている。ミッション・ビジョン等に共感はしたが、キーメッセージにある” 応援” という表現が気になる。県も一員であり、県も一緒に行っていくという表現に見直すべき。

・社会が目まぐるしく変わっていく中で 10 年後を見据えるのは大変であるが、県として何をするのが見えているのであれば、いいのではないか。応援というスタンスは理解するが、県として何をするのかを明確にするべき。

・バックカスティングに賛成。目指す姿を明確に。SDGs の取組が滋賀県は進んでいると注目されている。SDGs のゴール 8・9 が大事である。県内の企業を就職先に選択する学生が減っているなか、経済成長を前提にどう働き甲斐のある企業を作っていくか、そのような流れを生むビジョンを作っていくべき。

・バックカスティングにこだわりすぎると、決めたこと以外に対応できず、時代の変化に対応できない弱みができる。また、現在は時代の流れとして SDGs は古く、今はサーキュラーエコノミーに注目の目が向けられている。

・バックカスティングには一部賛成。こだわりすぎずに、資料 14 ページにもある OOD A（ウーダ）もうまく取り入れ、両方の考え方を活用するのがよいのでは。

・中長期のミッション等はあるべき。時代に即して対応するべきであり、今のうちからビジョンをどのタイミングで見直すということを決めておくべき。

・全体として構成はよい。メッセージの主語は誰か。” 応援” には主体性がないのでは。バックカスティングもいいし、フォアカスティングを否定しているわけではない。どういうタイミングで見直すのかというプランニングも明記すべき。

●論点 2 滋賀県が有する特徴について

・創造社会のインフラで一番重要なのは人材。滋賀の資産は、密度の濃いコミュニティ、人が活躍する場が特徴ではないか。また、オープンイノベーションで最近頻繁に問われるのは倫理。何が正しいのか、悪いのか、再生医療、遺伝子組み換え、GAF A の個人情報等、指針が重要になってきている。滋賀は SDGs の文脈で何が正しいのか、どういう働き方をどうするのか。QOL をどう高めるのか、というメッセージや価値観を、世界へ発信する良いチャンス。滋賀エンゲージメントとして世界に発信しやすいお土地柄もある。

・滋賀はスタートアップしにくい環境。資金調達もしづらい。滋賀の既存企業が活躍しているが、新しくチャンレジする若手たちを応援する土壌がないのではないか。商工会議所

1 等は企業連携等のマッチングの機会を提供してくれるが、若手は下に見られていた。既存
2 のルールのもと評価され、新たな価値で評価されず、シードやアイデアで評価されない。
3 ・弱いところを変えるのは時間がかかる。差別化できそうなところを伸ばす方がはやい。
4 全員を底上げは難しい。引き揚げたらついてくる考え方で、できるところからやるのがよ
5 いのでは。
6 ・企業間の接点を持つのは難しいのは甲賀市でも感じている。商工会が勉強会（創業塾）
7 をやってくれたりしてくれた。行政、民間、商工会が少しずつつながり、接点が増えてき
8 ている印象。滋賀の強みは、人のつながりだと感じている。
9 ・当社は、グローバルニッチ No. 1 を目指している。自分の強みを生かさないと世界に勝て
10 ない。滋賀県の中の人、外の人両方から見たそれぞれの強みを生かして、ビジョンに向か
11 ってどうするか。強みを徹底的に見直すべき。
12 ・特に若い世代は、サステイナブルに関心が高い。サステイナブル、ウェルネスを強調し
13 ている県はあまりないのでは。人がインフラであるという話があったが、インフラ＝人と
14 合わせて世界に発信できる余地がある。
15 ・行政をやっていて、良い学校、良い就職といった偏差値主義の反省がある。目先の利益
16 を追い求める時代ではなく、滋賀県では人をかなり大事にすることをやり続けている。三
17 方よしの精神に通じる。
18 ・倫理観や価値観などは滋賀県がやるべきで世界に誇れる。資料9ページにはないが、入
19 ってきてもいいのでは。（中国）深センでは、製造業があつてサービス業が発展するよう
20 な空間を作りつつ、（中国）北京とも（中国）**深圳**とも違うモデルが作れば、既存企業や新
21 規企業にも良い。すべての起業家ではなく、SDGsに関心が高い人たち等を絞り込むこ
22 とが良いのでは。
23 ・滋賀の強みは、住んでいる地域を自分たちでよくしていこうという気持ちが強いこと。
24 また、人材のいる地域では人材をつなげている人もいる。他方、さらにブラッシュアップ、
25 進化した方がよいところもある。人口減少社会において、多くの人に滋賀を選んでもらえ
26 る、そこにいる人の力を伸ばす、ダイバーシティ。既存の価値観ではない、新しい価値観
27 を受入れて生かしていくことが、滋賀という社会は活力ある社会になるのでは。
28 ・滋賀県としては、住むのにはいい、職住が接近していて環境はよい。余暇も楽しめる上
29 に人間として生活できる。その辺が、住んでいる人のよさ、倫理観につながってくるので
30 はないか。これがキーワードでうまく情報発信できればよい。京都や東京のような派手さ
31 はないが、理解していく人が少しずつ集まってくればよい。

32

33

34 ●論点3 産業振興の基本的方向について

35 ・滋賀の特徴は、春夏秋冬がはっきりしているという素晴らしい環境であり、琵琶湖の活

1 用を強みにして欲しい。琵琶湖でのアクティビティは人を育てることができ、自立
2 心が高めることもできる。

3 ・ムラ的なつながりは強く大事にするが、新しいものや多様性を受け入れることに弱点が
4 ある。これからの滋賀を考えたときに、多様性を受け入れることが重要。チャレンジする
5 人が集まるプラットフォーム等、わかりやすいことを具体的に入れていかなければ実にな
6 らない。滋賀にしかない美しい自然、健康しが・長寿、ムラ的なつながりを強みとして、
7 食の安全・安心、オーガニックの運営支援を入れていければよいのでは。

8 ・理念が重要。滋賀の強みを生かして何を求めて若い人が入ってくるための具体化。不変、
9 革新、連携と滋賀経済同友会では言っている。プレイヤーは事業者であり、社会基盤を作
10 るのが県。滋賀県には、強みはいっぱいある。若い人が呼べる要素として自然環境は魅力。
11 人が育つところ、人が生かせるところである。

12 ・資料 10 ページのポイント 3 のように、つながるといことが大事。廃業率も高かったが、
13 開業率も低いのが将来をみると問題である。産業振興につながるプラットフォームを作っ
14 て欲しい。ビジネスマッチングや創業・第二創業に取り組んでいかないと、働き甲斐も経
15 済成長もつながっていかない。

16 ・基本的方向、実証のメッカ、健康しがは異論ない。サイエンスを支える人材を育てる、
17 京都まで足を延ばせば学生がいる。フィールドスタディとしては滋賀。人材をつくってい
18 く機能を重視すべきでは。

19 若い人は早く離職するが、社会にインパクトを求める人が増えている。それに加えて経済
20 価値をどう生むか。

21 活動人口をどれだけ増やしていくのかも重要。

22

23 ●オブザーバー

24 ・SDGs は手段であり、それをどう循環型社会につなげるかが重要。

25

26 ●まとめ（会長）

27 論点 1 ビジョンの全体の構成は同意。文言の見直し、定期的に見直すことを盛り込む。

28 論点 2 滋賀の特徴は、人材育成を含めた人、倫理観、既にあるネットワークが強み。

29 論点 3 産業振興の基本的方向は、もう少し議論が思う。事業を起こすという観
30 点を踏まえていかないとジリ貧になる。産業の交わりも重要であるが、既存産業をデジタル
31 を活用して変えていくことが重要であり、テクノロジーを使える人を育てる必要がある。

32

33

以上